

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0193600061		
法人名	株式会社 日総		
事業所名	ふれあいの里 グループホームいすの木		
所在地	苫小牧市住吉町2丁目8番地9号 (電話) 0144-37-13		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年3月18日	評価確定日	平成20年5月8日

【情報提供票より】 (20年 2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年	6月	22日
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	16人	常勤16人, 非常勤0人,	常勤換算16人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1～	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000	円		
その他の経費(月額)	60000	円程度		
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300	円	

(4) 利用者の概要(3月18日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	5名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.9歳	最低	74歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 養生館 青葉病院、苫小牧日翔病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は平成18年6月に開設され、建物の中心に中庭を有し、柔らかな陽光が施設全体に行き渡る開放感あるホームである。回廊の周りには居間や食堂、居室、また畳コーナーが配置され、利用者が自由に過ごせる場所多く確保されている。気候の良い時期には中庭に草花が植えられ、利用者はベンチに座り、穏やかな時を過ごす事が出来る。また衛生管理が行き届いており、バランスの良い食事が提供されているのも特徴の一つである。開設2年目を目前にして、管理者、職員の良好な関係の中、ケアサービス向上への協働が軌道に乗ってきており、職員との明るい笑いのある会話を楽しみながら、利用者はゆったりとした日々を過ごされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での主な改善項目である家庭的な生活環境作り、過去の経験を活かしたケア、継続研修、事故報告等の情報の共有などが挙げられていたが、具体的な改善を講じたり、取り組みの継続的な実施を行なっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価に当たっては、管理者、職員が項目を分担し、ホーム全体で取り組んでいる。職員は日頃のケアサービスについて見直しを行ない、サービスの向上に前向きな姿勢が伺える。今後の取り組みに際しても、短期、長期的展望を持ち、計画的な取り組みを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 町内会長、民生委員、家族、包括センター職員の参加を得て、第1回運営推進会議を開催し、ホームの概要の説明、報告などを実施している。現在、次回開催に向け準備中であり、地域との関係作りも含めて、ホームの運営に運営推進会議を活かしていく予定である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホーム内に「意見箱」が設置され、内部、外部の苦情窓口が明示されている。職員全員が、利用者一人ひとりの状況を把握しており、家族の来訪時には利用者の日頃の暮らしぶりや健康状態などを報告している。年1回、家族会が開催されているが、今後はさらに家族の率直な意見、要望などの表出を助け、ホーム運営に活かす取り組みが期待される。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域のお祭りや小学校の学芸会に参加、またボランティアの受入れも実施されているが、地域との連携は十分とは言えず、今後、運営推進会議などを通して、徐々に交流の機会が増える事を期待する。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員全員で事業所の理念を作成し、さらに分かりやすい言葉での「モットー」を作り上げ、日々のケアサービスの提供に取り組んでいる。が、地域密着型サービスの役割を見据えた事業所理念の見直しには至っていない。	○	事業所の理念に基づいたケアサービスの実践に努めてきているが、職員全体で、地域密着型サービスの意義を話し合い、現理念に加え、現状に即した理念の作成に取り組むことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念及びモットーは事業所内の見やすい場所に掲示され、理念に結びつくサービスの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域のお祭り、小学校の学芸会などに参加している。またボランティアを受け入れて、地域とのお付き合いに取り組んできているが、地域住民との交流はまだ十分とは言えない。	○	地域の特性などもあるが、運営推進会議等を通して徐々に交流の機会を増やす取り組みを望みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に当たっては、管理者、職員が項目を分担し、全員で取り組んでいる。自らの日常介護についての見直しを行ない、サービス向上に活かそうとする姿勢が伺える。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年12月に第1回運営推進会議を開催し、町内会長、民生委員、家族、包括センター職員のメンバーで、事業所の概要説明などを行っている。現在、2回目の会議開催に向けての準備に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム協議会に出席し、研修報告の実施のほか、市町村の担当者との関わりは持たれているが、連携までには至っていない。	○	今後さらに、市担当者との関わりを捉えて、事業所の実情やサービスの取り組みなどの理解を求め、アドバイスなども頂きながら、共に質の向上に取り組む事を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月金銭管理の報告を行なっている。利用者の日々の暮らしぶりや行事の様子など、写真を掲載したカラフルな便りを発行している。家族の来訪時には、近況報告をするとともに、体調変化などの緊急時には速やかに電話連絡を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、家族会が開催されている。利用契約時の書面などで、苦情窓口についての案内を実施している。玄関ホールには意見箱の設置もされているが、現在のところ、利用されてはいない。	○	家族との関わりに配慮し、事業所においての家族との良好な関係性は、ともすれば率直な意見などを言いがたい状況が生まれる事も考慮され、更なる意見、要望などの汲み上げ、スキルの向上や工夫を望みたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動、また職員の退職などは多くないが、その交代の際には、新旧職員の引継ぎに1週間から10日の日程を取り、また夜勤帯についても同様の体制を取っており、利用者への影響を最小限に抑える配慮を実施している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は年に1回前後は外部の研修会に出席する機会を得ている。研修後は資料などの閲覧や、全体会議で報告がされており、全職員での共有が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会主催の研修会に参加し、他事業所との交流や学ぶ機会は持たれているが、相互訪問などの機会は実現していない。	○	地域の中で、法人以外の他の事業所との相互訪問の機会を得て、協働、交流を深めながら、ともにサービスの向上に活かす取り組みを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始に際しては、本人・家族と面接し、希望や状況などを伺っている。また事業所内の見学やお茶を共にするなど場の雰囲気を感じてもらう対応をし、本人の安心と納得のいく利用開始に配慮している。入居後1ヶ月は家族と頻りに連絡を取りながら、職員全員での見守りを強化し、徐々に馴染んで行けるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自ら行動を起こせる利用者は多くはないが、職員は一人ひとりの個性を理解している。過去の話を聞きながら、ともに喜びあったり、季節に合う大きなちぎり絵の作品を作ったりしながら、明るく笑いの多い会話がされており、共に喜び支えあう関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動などから、本人の意向の把握がなされている。また困難な場合は家族からの情報も得て、職員間で本人本位の視点に立って検討がされている。今後さらに、センター方式を導入する予定であり、より利用者個々の理解に努める方向である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別のアセスメントシートや家族の意見などを取り入れ、職員間で利用者個々についての検討を行ない、個別性の高い介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し期間は3ヶ月であるが、モニタリングの頻度を増やし、退院後、また状態変化時など、利用者の状況に即した見直しを実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関の受診は原則家族の対応であるが、本人、家族の状況や要望に応じて、柔軟に対応している。また家族の宿泊についても、寝具類の用意があり、その時々々の要望に応じた支援を実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりにかかりつけ医がおり、家族対応での受診であるが、心身の状況、状態変化については十分な共有が図られている。法人として、さらに協力医療機関との連携強化に向けての体制作りに取り組んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	すでに体調変化のあった利用者や重度化された利用者に対しては、家族と話し合いながら、事業所として出来る支援を行なっているが、明確な方針が作成されていない。	○	医療機関や、本人、家族と十分な話し合いを重ねて、事業所としての限界を見据えた上で、重度化に向けた対応の方針を統一する事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	個人記録などの管理の徹底が図られている。また職員の利用者に対する接し方は、明るく親しみはあり、一人ひとりの尊厳を損ねない対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きな生活の流れはあるが、その時々本人の状況や意思を尊重し、買物や散歩、ゆっくりと時間をかけた入浴など、出来る限り本人の希望に添う支援を提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は調理の下準備や味見、食後の下膳など、職員と共に楽しく言葉を交わしながら、出来る事を行なっている。職員は利用者と同じ食事を取り、さりげないサポートを行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回、午後の時間帯での入浴であるが、利用者の希望や状況により、柔軟に対応している。入浴時間の長さや、気の合う人と一緒の入浴など、一人ひとりの気持ちに合わせた入浴支援を行なっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケやカルタは利用者皆の気晴らしや楽しみ事であり、掃除や裁縫、編み物、ちぎり絵など日々の生活の中で、一人ひとりが無理なく力を発揮できるよう支援している。誕生会、お花見、ホテルでの敬老会は、家族も交えての楽しいひと時を過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の商店への買物、散歩やドライブ、事業所の中庭での日光浴など、その日の希望に添い、戸外に出掛けられる支援を心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所は交通量の多い道路に面しているのので、利用者の動向の把握や見守りを行ない、安全面で注意を払っている。またセンサーも設置されており、日中帯は玄関、ユニット入り口は開放されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、消防署の協力で避難訓練を実施している。事業所内の避難経路の確認や消火訓練が利用者参加で行なわれている。災害時における地域住民の協力要請は今後の課題としている。	○	様々な災害時を想定した具体的な対応策の検討や、職員だけの誘導の限界を認識し、運営推進会議などを通して地域住民に働きかけ、災害時の協力体制の構築を期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、彩り良くバランスの取れた食事を提供しており、食材も個々に応じて、食べやすい大きさに調理されている。個別に毎日の水分、食事摂取量の記録があり、体重増減による食事量の調整も、本人、家族と話し合いながら栄養管理を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清掃が行き届いており、清潔感がある。一日の大半を過ごすリビングには、施設中央の吹き抜けの大きな窓から優しい光が沢山入り、明るい生活空間になっている。また食堂などにも花を飾るなどの工夫がされており、季節感を感じる事ができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、家族の写真や馴染みの家具が持ち込まれ、本人と家族が話し合いながら配置され、利用者が過ごしやすい居室になっている。午前・午後の時間帯の中で、さりげなく安否確認を兼ねた清掃により、居室内の清潔が保たれている。		

※  は、重点項目。